

# 瘤とナツバ・青汁食

医学博士 遠藤仁郎述

## ホジキン病

東京からの電話相談。

「二八才の娘ですが、ホジキン病で放射線治療をうけました。

それで、リンパ腺の腫れはとれましたが、その後の回復が思わしくなく、からだがだるい、といつて、いつもコロコロ臥てばかりいます。

顔色もよくありません。

食欲はありますか、元来ひどい偏食で、西洋風をこのみ、主食はパン。ご飯はあまり食べません。

副食は肉類。それも輸入ものばかり。野菜類は一切食べず、くだものは多少食べますが、好物はコーヒー・ケーキです。

青汁をすすめたいと思いませんが、

とのこと。

「この病気は、全身のリンパ腺が腫れ、熱も出るという癌性の病気の一つ。

原因は、おそらく、お話しのようなあやまつた食生活でしょう。

肉類がすぎ、糖分が多いと、血が酸性にかたむき、有害な代謝産物ができるやすいうえ、加工・保存食品に多い添加物の害も加わって、血がにじり、からだの抵抗力がよわり、病氣しやすくなっています。

そこへ、それらに少なくない発癌物がはたらいた結果ではないか、とかんがえられます。

そしてまた、放射線治療後の回復がはかばかしくないもの、やはり、原因はあやまつた食にあるにそういうありません。

そこで、ともかくまず、食生活の根本的たてなおしをはかるべきですが、その中心になるものは、

(一) いまの食事に不足している「ネラル・ビタミン」を十分に補給するうこと

(二) できるだけ安全な食品をえらぶこと、ことです。

そのためには、「ネラル・ビタミンのもつとも有力な給源である良質ナツバの大量、少なくとも一日一〇一・五キロ、青汁にして四一五一六合以上のもこと。

そして、主食にはパン（米飯よりはよいが、「ネラル・ビタミンはえしゃりとは大差はないし、添加物が少くない）よりもイモ類。

肉（獣鳥魚介）類の切身、ことに加工・保存品は極力避け、どうしても欲しければ、全体食べられる小魚類。

「ジヤコですか？」

「安全海域でとれたイリコ、チリメンなどがよい筈なんですが、残念ながら、酸化防止剤がつかわれています。むしろ、新鮮なワカサギなどがよいでしょう。

さらによいのは大豆。それも、なるべく国産の安全なもの。納豆、キナコ、煮豆、自家製豆乳、豆腐（市販品は安全性に問題があります）

それに、良質安全なナッパを中心とする野・山菜、海藻などしつかりそえます。(イモ・マメ・ナッパ食)

調理は簡単に、味つけはうすく。

また、菓子、コーヒー、ジュースはやめること。

今までの通念からすれば、あまりに突飛なことのようですが、いまのお嬢さんにとって、これほど適切なものはない。いや、こうするしかないと私は確信しています。

問題は、それがはたしてすなおに受け入れられ、実行されるか、どうかです。

納得ずくてなければ、いくらはたがさわいでもムダですが、いかがでしよう。

さあ、なにぶん我儘ものですから……。

「うけ入れられればよし、むつかしいようなら、青汁だけを飲むことで妥協し、青汁断食をやってみるのも一法でしょう。

一二三日の間、ほかのものは食べず、ただ青汁だけを飲む。

生の青汁の方がよろしいが、粉末がよければそれでも結構。

そして、うまくなにならぬ効果が出て、納得がゆくと、あとがやりよくなります。

次の問題は、青汁ですが、さいわい銀座にスタンドがあり、絶対安全・良質の青汁が利用できます。

いずれにしても大量が必要ですから、煙があればケールをおつくりください。

「ソリにはおりませんが埼玉の実家には広い畠があります。

「そこでうんとつくつてもらって、存分に食べ、飲むことです。」

「で、どれくらいかかるでしょうか?」

「それはわかりません。なにぶんむつかしい病気のことですから。

ともかく持久戦です。

じつと腰をすえてがんばることが肝腎ですよ。

(六〇・二二)

この方のその後の消息は、残念ながら、不明だが、さいきん、銀座青汁スタンドの田辺氏から、ナッパ・青汁食による悪性リンパ腫(全身のリンパ腺がはれる悪性の病気の総称で、ホジキン病もその一つ)快癒の朗報がよせられた。

### 悪性リンパ腫快癒

昭和四六年七月生れの男子。

昭和五八年一月発病、横浜医大病院入院。

悪性リンパ腫として治療。軽快、退院したが、三月再発、再入院。

一ヶ月あまり放射線治療をうけていたが、治らない病気ときいて退院。

以来、田辺氏指導のもとに、イモ・マメ・ナッパ食と、大量のケール顆粒飲用に専念。したいに好転。中学へ進学。一年生ではバレー・ホールのレギュラーとして活躍するほどの健康体となり、医大の先生から、

この難病の再発では、世界中で一人も生存者はいないのですが、元気になつてよかつたと、ほめられた。

ついで高校も元気で卒業。現在は専門学校に、一日も休まず通学している。

(平成四年一月)